

植物観察会第63回 万博公園の木の实と鳥

2015.12.17(木) 9:30~14:00
日本野鳥の会大阪支部
平 軍二(g-hira@nifty.com)



万博公園は平が鳥に植物との関係を教えてもらった探鳥地、ここでの観察結果は、むくどり通信に「植物と鳥の歳時記」として連載しました。液果が色づくのは鳥に食べ頃になったことを知らせる合図、鳥に食べられて種子をあちこちにばら撒いて欲しいという植物側の戦略です。北国からきた冬鳥たちが、植物の戦略に乗っかり公園内の液果を食べ、ここで越冬します。今日はそのような鳥たちの生活を紹介したいと思います。

1. 万博公園周辺の航空写真

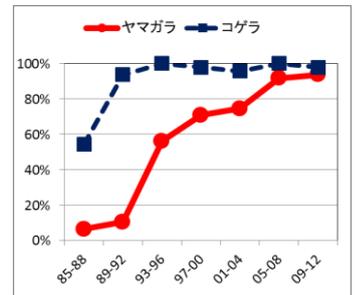
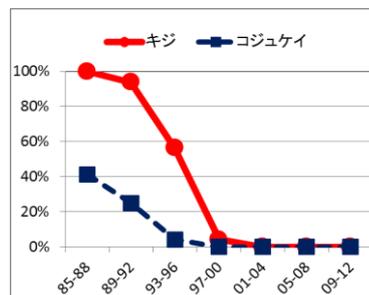
インターネットで国土地理院より航空写真を公開されています。万博公園周辺の1975年、1985年、2012年を並べてみました。

1975年(左上図) 万博が終わって5年、日本庭園は万博開催時に植えられた木々は緑色になっています。自然文化園は西大路より北側に緑が若干見えますが、南側はまだ植栽工事中です。

1985年(左中図) 万博探鳥会をスタートした年です。上の写真より10年経過、西大路より北側は良く樹が育っているが、南側は後に花の丘となる所の緑がまばらです。ここは土壌が悪く樹が育たなかったため、コスモス畑(花の丘)に改変したと聞いています。

2012年(左下図) 木々が育ち、すばらしい樹林に変化しています。その状況は今日確認します。

3枚の航空写真から、万博公園に草原の鳥(キジなど)がいなくなり、林の鳥(ヤマガラなど)が定住した環境変化がわかります。



2. 木の实と鳥の関係

冬は落葉樹の葉が落ちて木の实が見やすいこと、北国から冬鳥が渡来して野鳥の種数・個体数が多い季節、木の实と野鳥の関係が観察しやすい時期です。

木の实に鳥が来るのは、次の二つの理由の内、どちらかです。

液果(色のついた木の实): 種子分散のため、植物側が熟した実を食べてほしいと、鳥を待っている……木の实の色・大きさ・形は鳥に選択された結果である。

乾果(それ以外の木の实): 植物は種子分散方式を別に持っているため、鳥に依存しておらず、鳥に食べられては困る実……鳥の方が木の实の栄養価に目をつけ食べにくる



1975年1月7日



1985年5月23日



2012年9月26日

3. 液果

色のついた木の実は、外側に果肉、真ん中に種子があります。
果肉を鳥に食べてもらい、種子を遠くに運んでほしいという、植物側の戦略です。





ノイバラ



バラ



ハマヒサカキ



ヒサカキ



ピラカンザ (タチバナモドキ)



ヘクソカズラ



ムクノキ



ムラサキシキブ

4. 乾果

乾果は風で飛ぶ、自重で落ちるなど、鳥の来ることを期待していない木の実で、あまり派手な色はしていません。しかし、鳥はその栄養に目をつけて食べに来ます。



アキニレ



アベリア



アメリカフウ



台湾フウ



イヌシデ



イロハモミジ



カエデ (イタヤカエデ)



トウカエデ



アラカシ



クヌギ

←2年目

↑1年目



エゴノキ



キリ



コノテガシワ



シナサワグルミ



シンジュ



スギ



ススキ



セイタカアワダチソウ



スダジイ



センペルセコイア



タンキリマメ



ハンノキ



ドウダンツツジ



ナンキンハゼ



ハギ



ハゼノキ



ヒノキ



ヒマラヤスギ



プラタナス



ユリノキ



メタセコイア



ラクウショウ

5. 鳥媒花

チョウやハナバチ・ハナアブなどの昆虫が動けない冬に咲く花は、花粉媒介を鳥に依存しています。花はサザンカ・ツバキ・ビワ・ウメなど、鳥はヒヨドリ・メジロなどです。



サザンカ(雄しべ→花弁)



ツバキSP



ビワ

日本では鳥媒花は多くありませんが、熱帯では鳥媒花が非常に多いようです。花粉媒介を専門にしている鳥に、ハチドリやミツスイがいて、花と鳥が1対1で対応して共進化しているケースも少なくないようです。

5. 風媒花

スギ花粉、ヒノキ花粉など、風媒花の花粉は「花粉症」と呼ばれるアレルギー症の原因物質として、嫌われ者になっています。しかし、昆虫や鳥のいなかった時代から、風という自然エネルギーを利用してきた植物です。



スギ雄花



メタセコイア雄花



ヒマラヤスギ雄花



雌花→

←雄花

ハンノキ

6. 鳥の目で世界を見た

自然文化園内にある「ソラード」は熱帯雨林のツリーウォークを模して造られた森の空中観察路で、設計者は自然文化園を設計された吉村元男先生です。コース最終の展望タワーの中段に「鳥の目で世界を見た」が、掲示されていますが、作詞者は、日本万国博覧会協会時代に万博公園自然文化園の森を30年間管理されてきた中井和成氏(大阪芸術大学講師:筆名高階紀一氏)です。

鳥の目で世界を見たら

高階紀一

地上から一メートル三十センチのぼく。

地上から二メートルの高さに立つと、三メートル三十センチのぼくになる。

地上から十メートルの高さに立つと、十一メートル三十センチのぼくになる。

巨きくなると、こんなにも世界が違って見えてくる。

目の下に広がる木々の海。

あのいちばん高い木はギンドロの木。濃い緑はシイやカンの木。

その上を鳥がゆつくりと飛んでいる。

ぼくより下を飛んでいる。

あんなところで鳥は、何をしているのだろう。

森の中にはどんな生き物がいるんだろう。

鳥も木も昆虫も

みんなひとつにつながっている。

この大きな緑の中で、人間も、みんなといっしょにつながっている。

鳥の目で世界を見たら、それがはっきりとわかる。

こんなに高くのぼってきたけれど、まだまだ空には手が届かない。

空は広い。空の向こうはもっと広い。

いくら手を伸ばしても届かないけれど、ここを伸ばせば見えてくる。

今まで見えなかったものが、きっと

いっぱい見えてくる。

いっばい見えてくる。

6. 植物と鳥の歳時記(集約表)

むくどり	発行月	連載回数	No	植物名	鳥利用	鳥名	実の性状	色	季節	むくどり	発行月	連載回数	No	植物名	鳥利用	鳥名	実の性状	色	季節
133	98.1	33	1	アオキ	実	ヒヨドリ シロハラ	液	赤	早春	112	94.7	12	22	サンゴジュ	実	メジロ・ヒヨドリ	液	赤	夏秋
117	95.5	17	2	アカマツ・クロマツ	実	ヤマガラ ヒガラ・マヒワ	乾	茶	冬	134	98.3	34	23	サンシュユ	実	ヒヨドリ・メジロ	液	赤	冬
103	93.1	3	3	アキノレ	実	アトリ・マヒワ カワラヒワ	乾	茶	秋冬	119	95.9	19	24	シナサワグルミ	実	イカル・シメ	乾	茶	冬
131	97.9	31	4	アケビ	実	ヒヨドリ・メジロ	液	紫	秋	137	98.9	37	25	ススキ	実	ベニマシコ アオジ	乾	茶	冬
102	92.11	2	5	イロハカエデ	実	イカル・シメ	乾	茶	冬	105	93.5	5	26	センダン	実	ムクドリ・ヒヨドリ ツグミ	液	白	冬
109	94.1	9	6	ウメ	花	ヒヨドリ・メジロ		ピンク	冬	108	93.11	8	27	トウカエデ	実	シメ・イカル	乾	茶	冬
132	97.11	32	7	ウメモドキ	実	ヒヨドリ・メジロ	液	赤	冬	105	93.5	5	28	トウネズミモチ	実	ヒヨドリ レンジャク	液	黒	冬
120	95.11	20	8	エゴノキ	実	ヤマガラ	乾	褐	秋	114	94.11	14	29	ナンキンハゼ	実	カワラヒワ キジバト・カラス	乾	白	冬
107	93.9	7	9	エノキ	実	ヒヨドリ・メジロ カラス	液	橙	秋	118	95.7	18	30	ナンテン	実	ヒヨドリ レンジャク	液	赤	冬
					実	イカル・シメ	乾	黒褐	初冬	130	97.7	30	31	ヌルデ	実	コゲラ ルリビタキ	乾	茶	冬
106	93.7	6	10	エンジュ	実	ヒヨドリ・ツグミ	乾	黒	冬	137	98.9	37	32	ハギ	実	オオマシコ ホオジロ	乾	茶	冬
102	92.11	2	11	カキ	実	ヒヨドリ・ムクドリ ツグミ	液	橙	冬	138	98.11	38	33	ハゼノキ	実	コゲラ・アオゲラ イカル	乾	茶	冬
111	94.5	11	12	クスノキ	実	ヒヨドリ・ツグミ カラス	液	黒	冬	103	93.1	3	34	ハルニレ	実	カワラヒワ イカル	乾	茶	春
128	97.3	28	13	クスギ・アベマキ (ドンギリ類)	芽	マヒワ ニューナイスズメ		萌黄	春	110	94.3	10	35	ハンノキ	実	アトリ・マヒワ	乾	茶	冬
					実	アオバト・カケス オンドリ	乾	茶	冬	111	94.5	11	36	ヒイラギナンテン	実	ヒヨドリ	液	紫	夏
126	96.11	26	14	グミ	実	メジロ・ヒヨドリ	液	赤	秋春	127	97.1	27	37	ヒノキ・サワラ	実	マヒワ・アトリ	乾	茶	冬
121	96.1	21	15	クロガネモチ	実	ヒヨドリ レンジャク	液	赤	冬	115	95.1	15	38	ビラカンサ	実	ヒヨドリ・ツグミ レンジャク	液	赤橙	冬
135	98.5	35	16	クワ	実	ヒヨドリ・メジロ	液	紫	夏	123	96.5	23	39	ビワ	花	メジロ		黄白	冬
110	94.3	10	17	ケヤキ	花芽	ヒヨドリ・ドバト マヒワ		萌黄	春						実	ヒヨドリ・ムクドリ	液	黄	夏
122	96.3	22	18	コブシ	花	ヒヨドリ		白	春	108	93.11	8	40	フウ・モミジバフウ	実	アトリ・マヒワ カワラヒワ	乾	茶	冬
					実	ヒヨドリ・ムクドリ	液	赤	秋	125	96.9	25	41	ヘクソカズラ	実	ジョウビタキ メジロ	液	茶	冬
104	93.3	4	19	サクラ類	芽	ウン		褐	早春	124	96.7	24	42	マンリョウ	実	ヒヨドリ シロハラ	液	赤	冬
					花	メジロ・ヒヨドリ ニューナイスズメ		ピンク	春	107	93.9	7	43	ムクノキ	実	ヒヨドリ・ツグミ イカル・シメ	液	黒	秋冬
					実	ヒヨドリ・カラス	液	黒	初夏	113	94.9	13	44	ムラサキシキブ	実	メジロ ジョウビタキ	液	紫	秋
109	94.1	9	20	サザンカ	花	ヒヨドリ・メジロ		ピンク	冬	129	97.5	29	45	モウソウチク	葉柄	イカル		褐	冬
136	98.7	36	21	サルスベリ	実	マヒワ	乾	茶	冬	116	95.3	16	46	ヤブツバキ	花	メジロ・ヒヨドリ		赤	春
										106	93.7	6	47	ヤマモモ	実	ムクドリ・ヒヨドリ	液	赤	夏

・鳥利用: 鳥に利用される場所(芽・花・実・他)

・鳥名 : よく来る鳥1~3種

・実の性状 : 液=液果 乾=(液果以外の乾燥した実)

・色 : 芽・花・実の色

・季節 : 鳥の来る季節

日本野鳥の会大阪支部会報の「むくどり通信101号~138号(92.9~98.11)」に、
万博公園で観察される鳥と樹木の関係を「歳時記」として連載したもので



ナンキンハゼ+シジュウカラ

(写真撮影日時と場所)

右のカキとスズメは吹田市山田ですが、
それ以外の写真はすべて12/7 or 12/12に
万博公園で写したものです。



カキ+スズメ
151215吹田市佐竹台

7. 観察した鳥の記録

科名	種名		
カイツブリ	カイツブリ		
ウ	カワウ		
サギ	アオサギ	コサギ	
カモ	カルガモ	ヒドリガモ	
タカ	オオタカ	ハイタカ	
ハト	キジバト	ドバト	
カワセミ	カワセミ		
セキレイ	キセキレイ	ハクセキレイ	セグロセキレイ
ヒヨドリ・モズ	ヒヨドリ	モズ	
ツグミ	ジョウビタキ	ルリビタキ	シロハラ
	ツグミ		
ウグイス	ウグイス		
エナガ	エナガ		
シジュウカラ	シジュウカラ	ヤマガラ	
メジロ	メジロ		
ホオジロ	アオジ		
アトリ	カワラヒワ	アトリ	イカル
	シメ		
ハタオリドリ	スズメ		
ムクドリ	ムクドリ		
カラス	ハシボソガラス	ハシブトガラス	
観察種数 計			種

8. 今後の観察会案内

(他団体を含む)

①吹田の原っぱのロゼット・幼苗

151221(月)9:30~12:00頃

集合: 阪急北千里駅改札口

主催: すいた市民環境会議

参加費: 会員200円・非会員300円

夏に一面のチガヤを楽しんだ草原が売却され、歩けるのは今年のみになりました。今の季節、希少種は見えませんが、ロゼット・幼苗を約60種を観察する予定。

②千里(第4)緑地探鳥会

151223(水)9:30~14:00頃

集合: 阪急山田駅1Fバスターミナル

主催: 吹田野鳥の会

参加費: 会員0円・非会員200円

夏にヒメボタルが観察できる千里第4緑地など、山田駅~南千里駅まで高野台・佐竹台一周コースで、池のカモ・林の小鳥約25種ほど観察する予定

③万博公園探鳥会

160109(土)9:30~15:00頃

集合: 自然文化園中央口(今日と同じ)

主催: 日本野鳥の会大阪支部

参加費: 会員100円・非会員200円

鳥中心なので、約40種観察予定。

(上記以外にも平が担当)

④ほしだ園地探鳥会

151228(土)9:30~15:00頃

集合: 京阪私市駅前

(野鳥約30種観察予定)

⑤牧野(淀川上流)探鳥会

160103(日)9:00~12:30頃

集合: 京阪牧野駅

(野鳥約50種観察予定)



2015年11月19日開業したエキスポシティへの人並み